

「名勝 小金井桜」－玉川上水堤のヤマザクラ並木－ のこと

植竹 隆夫

もう暫くすると、また今年も春本番を前に桜の季節を迎えます。コロナ禍で制約の多い日常生活を余儀なくされるようになってから3回目の春になりますが、コロナ以前に増して桜の開花が待ち遠しく感じられるのは私だけでしょうか。

自宅近くの玉川上水堤に桜並木があります。国の名勝に指定されている「名勝 小金井桜」です。江戸期徳川吉宗の時代に植えられ、全国的に有名な花見の名所として広重の錦絵にも描かれてきた歴史的文化遺産なのですが、近年生育環境悪化で衰えが目立ち、かつての面影がなくなっており、これを何とか復活させ次代に継承させようと市民団体が活動しています。

というわけで、ここではその「名勝 小金井桜」についてご紹介したいと思います。

●名勝小金井桜とは

名勝小金井桜とは、小金井市北側の小金井橋を中心に玉川上水両岸に約6kmに渡って植えられたヤマザクラ主体の桜並木のこと(*1)です。大正13年(1924年)に多種多様なヤマザクラの一大集積地であり武蔵野の環境と調和した優れた景観であること等が評価され、吉野(奈良)や桜川(茨城)とともに国の名勝に指定されました。

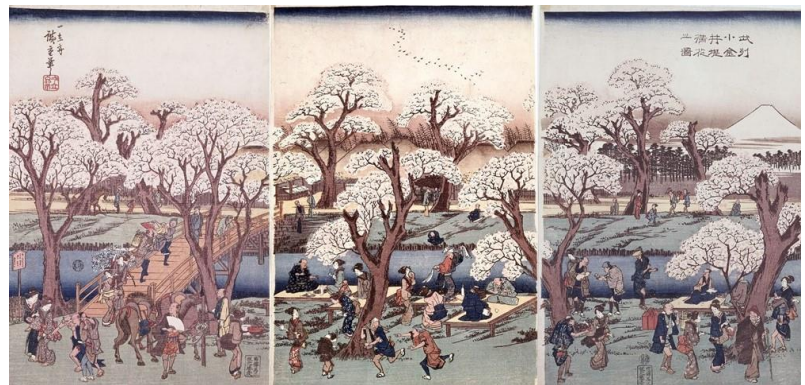
因みにヤマザクラは日本固有の野生種で開花と同時に若芽を付けるのが特徴で、園芸種のソメイヨシノが明治以降全国に植えられるようになるまでは、桜の代表品種として昔から人々に親しまれてきた桜です。ソメイヨシノはクローンなので開花時期や色・形が均一、それで一斉に咲くので華やかですが、ヤマザクラは自然交配によって繁殖し開花時期や花・若芽の色が多様なため、とても趣があります。

(*1) 平成5年(1993年)東京都教育委員会による現況調査では、桜の本数は約1,100本で約60%がヤマザクラでしたが、樹勢悪化が著しいとの報告。

●小金井桜の歴史

かつて小金井といえば誰もが玉川上水の桜を連想したそうですが、その歴史を小金井市教育委員会発行の冊子「名勝小金井 桜絵巻」から辿ってみると

【江戸時代】 小金井桜は元文2年(1737年)、徳川吉宗の命を受け武蔵野の新田開発を進めていた代官川崎平右衛門によって、所謂村おこしの一環として吉野や桜川から取り寄せたヤマザクラが玉川上水の両岸に植樹されたのが起源とされます。19世紀に入ると紀行文や浮世絵で紹介され、江戸近郊随一の桜の名所として多くの花見客が集うようになります。その象徴的な姿が歌川広重の錦絵に良く現れています。



歌川広重 『武州小金井堤満花之図』 (小金井市提供)

【明治・大正時代】 明治22年(1889年) 甲武鉄道(現在のJR中央線)が開通し、大正13年(1924年)には花見客のために武蔵小金井仮乗降場(現在の武蔵小金井駅)が開業して、東京市民の行楽地として大いに賑わいました。

【昭和時代】 賑わいは昭和初期まで続きましたが、戦中・戦後の混乱期には花見どころではなく管理も停滞しました。その後一時的に戦前の賑わいを取り戻したものの、昭和40年(1965年)淀橋浄水場が廃止され小平監視所より下流が上水の役割を終えると、21年間にわたり水流が止まり、以来ケヤキ等の雑木が繁茂し始め桜並木の荒廃が進みました。

●名勝小金井桜の衰退状況

現在の小金井桜は、樹木の老齢化や雑木による被圧・陽当たりの悪化、五日市街道の排ガス等様々な生育環境の悪化により樹勢が衰え枯死する木も増えており、名勝の存続が危ぶまれる状況にあります。

●名勝小金井桜 復活プロジェクト

平成15年(2003年)玉川上水が国の史跡に指定され、管理者である東京都水道局は平成21年(2009年)に「史跡玉川上水整備活用計画」を策定し、水路の保全計画とともに名勝小金井のヤマザクラ並木の復活計画を示しました。これに沿って平成22年(2010年)から10年計画で桜を被圧している雑木等の剪定・伐採を行い、そこに吉野山や桜川の系譜を引くヤマザクラ苗木を植樹して、名勝に相応しいヤマザクラ並木の景観への復活を目指すプロジェクトがスタートしました。

並木の衰退が著しい小金井公園の南側にモデル区間を設けて整備作業を始め、植生への影響等状況を見ながら順次区間を広げて行く予定でしたが、繁茂する雑木を含めた上水堤グリーンベルトを都会に残る貴重なオアシスと認識する人達が、桜だけの保護は生物多様性保全に反するなどとして雑木の伐採に反対し、10年以上が経過しましたが計画はなかなか予定通りには進まず、現在のところ整備されたのは名勝区間約6kmのうち小金井市域の2kmほどに留まっています。ただ整備された区間では、多くの桜樹の雑木に被圧されていた側に枝が伸びて樹形が改善され始め、雑草に負けて殆ど見られなかったニリンソウ、ノカンゾウや草ボケなどの在来の野草の群落も見られるようになりました。また新たに植樹されたヤマザクラの若木が成長し、花を付け始めて私たちの目を楽しませてくれるようになってきています。



整備区間に甦った小金井桜の若木

(2021. 3月 杉山氏撮影)

●私たちの活動

私の所属している市民団体「名勝 小金井桜の会」は、歴史的文化遺産である小金井桜を愛し、この遺産が適切に保護され次代へ継承されることを目指して活動していますが、上記の復活プロジェクトに対しては、小金井市から提供を受けた畑で後継樹の苗木を5~6年育てて東京都に提供するという役割を担ってきました。高齢の会員ばかりの中で、後継樹に相応しいヤマ

ザクラの親木から接ぎ木で苗をつくり育てる作業は、接ぎ木という技術そのものも難しく簡単なことではありませんでした(*2)が、現在までに約240本のヤマザクラ苗木を提供し上水堤に植樹されてきました。

しかしながら、この育苗作業を一市民団体で続けて行くのは極めて難しく、打開策を模索していましたが、今年から都立府中農業高校が趣旨に賛同して授業の一環として育苗作業を担ってくれることになり、未来を背負う若者達がこのことを通じて地域の歴史や小金井桜にも関心を持ってくれることに繋がると、たいへん喜んでいきます。 今後は私たちの会も協力して進めて行くことにしています。

(*2) ヤマザクラの種を拾い集め実生苗から苗木を育てる方法もトライしましたが、多くが成長してからヤマザクラ以外の品種との交雑種と判り後継樹とすることを断念せざるを得なくなった苦い経験もあり、後継樹の苗木は「接ぎ木」によって増やすこととしています。

小金井桜は、2年後の2024年に名勝指定100周年となる大きな節目の年を迎えます。 私たちの会では、これを機に多くの皆さんに小金井桜にもっと関心を持ってもらえるよう、関係団体や行政機関に呼びかけ学習会・講演会や展覧会などいろいろなイベントを開催しようと構想しているところです。 願わくは上述した小金井桜復活プロジェクトに反対されている方々にも、新田開発から始まった郷土の発展の歴史やそれと不可分の小金井桜の歴史的価値をしっかりと再確認いただいて、これから生物多様性保全と共生しつつどう守り継承して行くべきか考えていただければと思っています。